Dream Club
ドリームクラブ 仮入会証
ONLY FOR "PURE" ADULT
Presented by Phantomcross

DreamClub
(ドリームクラブ、略称:DC)

週末だけの出会いが、僕のハートを狂わせる。

受付嬢 ―Introduction―
『あっ…あっ…んっ……くっ…あ…
い…いらっしゃい…ま…せ…！…はあっ
ようこそ…ドリームクラ…ブへ…
んっ…だめ…そこ……感じすぎて…
あ…すみません……い…一緒に過ごす
女の子をし…指名して…ください…ね♡
…えっ…ご指名は…わ…私……ですか？
私はホストガールではないのですが…
でも…私で宜しければ……』
受付嬢「いらっしゃいませ！ようこそ、ドリームクラブへ！」

雪「『お兄ちゃん…あのね…セッちゃんの初めて…一番大切なお兄ちゃんにあげても…いいよ…』」

雪「『ふあぁ…っ！んあ…っあっあ…！お兄ちゃ…んまっ…て…待って…え…こんなの急すぎるよぉ…っ！あっあっ！セッちゃん初めてなんだからぁ！お兄ちゃんのばかばかぁ♡あっあっ♡あっ♡あっ…ん…♡』」

雪「『あっ…んっ…あっ♡あっ…♡な…にこれ…？…何かヘンだ…よぉセッちゃんのアソコ…ヘンだよぉっ！こわいよぉ！…お…兄ちゃん…セッちゃんヘンになっちゃうよぉっ!?お兄ちゃん…っお兄ちゃんっ!!』」

雪「『セッちゃんもうだめぇぇっ！んあっっ！…あっあっ…！あーっ！あーっ！あぁぁあっ!!』」

雪

「自称パティシエ。甘えん坊で気まぐれな女の子。」

みお
『あっくっ！んあぁ…あっ！
なんやの…っ！これ…あっ…
うち…あなたのが…んあっ！
出たり…入ったりするたびに
すごぉ…気持ちええんです…!!』
みお
『あっあ！…あっ！…んあぁあっ！
あなた…も！…い…一緒にっ！
かましまへん…っ！うちの初めては
中に…っ…中に来てええっ…っ!!』
みお
『ああぁぁんっ！あーっ！
んあああああああああっ!!』
みお
『はあっ……はあっ…
ん……あ…っ…あ……』
みお
『んっ！あっあっ……！っ…ち…
うち…もうあきまへんの…んあっ！
あなたのでイっちゃ……っ…っ…
あ…あ…イキそっ…イキそっ…！
イクっ…イクイクっイクっっっっっ!!』

みお ―After―

『あっ…く…イク…っ！…イクっっっ！』

『はあっ……はあっ…ん……あ…っ…あ
あそこもこんな…んっ…とろとろに…
やらっこくなって……あ！…そないなトコ
触られたら…私…また…あっ…あっ…！
んっ…っ…き…気持ち…ええです……♡』

「私…作ったホレグスリを自分で
試してみたはずなんやけど…よく考えたら
元から……好きな相手に効果があるわけ
ないやんなあ……え？さ…催…淫薬？
な…っ！…なに言ってますの…!?」

「でも…それなら…あなたもお手伝いして
して頂けないやろか…？♡」

「次の発明はなんと!?失敗続きの発明家。」

みお

アイリ
『はい…了解に……はい…
キャンディーを舐めるように
緩急をつけて……吸いながら…
…はい…男性の物はそれ自体が
急所なのですか…なるほど…！
ハイです！気を付けますです！』
アイリ
『何事も勉強なのです！
吸引角度を+5度に微調整…
パワーバランスを+2に修正…
キャンディーを舐めるように…』
アイリ
『…この…不思議な感覚は
いったい何でしょうか…？』
アイリ
『頭がクラクラして…
全身が熱を発しているのです…
OSが…ダウンしてしまいそうですが
でも……悪い気はしないのです…』
アイリ
『こ…これは…？
急に堅くなってきたのです
ど…どうしましょう…!?
ワタシは何かイケナイ事を
してしまったのでしょうか!?
いったい何が起こって……』
アイリ
『んあ…う!?』

アイリ ―Berore―
『いつものようにお勉強するですか？
ワタシが人間の女の子になる為にまだまだ
いっぱいアナタから教わりたいです。
はい、今からお勉強ですか？……大丈夫なのです。
……おロ？おロで何をするのでしょう？
ワタシのデータに無いのでよく分かりませんが
頑張りますので教えて欲しいです！』
アイリ ―After―
「いっぱい出ましたですね……
はい…大丈夫なのです。ワタシはこれでも
頑丈に出来ているのです。
どうだった、ですか？…解析してみるです。
そうですね…量、粘度は平均的だと思われます。
しかし1ミリリットル当たりの……」
「……そういう話ではないのですか？
ワタシ自身の事ですか…はい…実はずっと
ドキドキしっぱなしなのです……ワタシには
どうすればいいのか分からないのです。
もっと詳しく教えてくださいです…」
アイリ
「データ収集のために制作されたアンドロイド。」

魔璃
『あっあぁぁぁ……っ…んぁっ…っ！
お…落ちついて…あ…くっ…
はぁっ…んっっ…あぁぁぁぁっ！』
魔璃
『わたし…し…っこのまま…だと…あっ
こ…壊れてしまうわ…んぁっ！
あなた…に…はぁっ…壊されて…
めちゃくちゃに…されて…！
でも…最後は…中は…だめ…!!』
魔璃
『あっあ…っ！…んっ…いい…わ…っ
中に出して…っ…あなたの全てをっ
私の体に…！心に刻みつけてぇっ!!』
魔璃
『はぁっ…あっぁぁっ…
ぁぁぁぁぁぁぁぁっ!!』

魔璃 ―After―
「くっ…あ…っんっ……あっ…あ…
どう……して……はあっ…中に…
中に出した…の？…はあっ…ダメ…って…
言ったじゃない……ん……最後に私が…
良いって言った……？…それは……
あなたに私の初めてを…私の…魂を
汚されたから…そうに決まってるわ…
そうよ…染められてしまったのよ……』
魔璃
「あなたは…確実に地獄に落ちるわ……
覚悟することね…あなたの魂が浄化されるまで
地獄の業火に焼かれ続けることになるのよ…」
「でも…安心しなさい……
私は…一度死んでるから…二度目も同じ事…
だから……私も一緒に落ちてあげる……
ずっとそばにいてあげる……」
『自称ブラッディマリリン。ミステリアスな眼帯娘。』
魔璃

魅杏
「私の…その…は…はじ…初めてを
あ…あげるって言ったのよ…！」
魅杏
「なっ…何よ…そんなに……
私の事…シロシロ見ないでよ……
恥ずかしいから…はやく…して…
勇気出して…言ったんだから…！」
魅杏
「くん…っ…んあっ…んあうっ！
痛…っ！くっ…あ…っ
いい…から…続けて……！
もっと…あなたのを……んうう！」
魅杏
「あうっ…あっあっあああ！
き…気持ち…いい…？…痛いけど…
私…気持ちよくなってる…かも…あっ♡
あなた…はどうなの…？…あっ…私で
気持ちよくなって…んっ…くれてるの？」
魅杏
「え…っ？……いきなり激し…く…！？
なに？…なに…っ？…んあっ！あっ…あ！
あっあっんっ…あ…あっあああああっ！？」

魅杏 ―After―
『ん…あ…う…う…うううう…ぐすっ……
はあっ…熱い…まだ…溢れてくる…う
んぁ…さ……っ…最低…よ……はぁ……
こ…んなのが…初めて…なんて…いや…
はあ…っ…はあっ……はぁ…っ…
や…そんな…所…触らないで…また…
気持ちよく…なっちゃうから…ぁ！……』
「中に出して…どうなるか分かってるの？
ちゃんと…せ…責任…取りなさいよね…！
え…取る？……えええと……その…
それなら…初めからちゃんと…やさしく…
して欲しいな……ああっもう！
恥ずかしいんだからいちいちこんな事
言わせないで早くしなさいよバカぁ…！」
「超弩ツン。とりつく島もない冷徹な娘。でも本当は…。」
魅杏

玲香
『ちょ…っ！…あっ…っ…うちにだって
まだ心の準備があるんよ…っ！
そ…それは…ええとは言ったけど
もうちょっとだけ待ちいな…んあっ！
あかんて…あっ！…んっうあぁぁ！』
『入ってる…キミのがうちの中に
全部入って…！……あ…れ？
なんやろ…これ…痛いのに…
気持ち…ええ…かも……』
玲香
『んあっ！んっ…んっ…！あっあ…
こんな…こんなの激しすぎやんかぁ！
もっと…あっ！…優しく…あああぁっ！』
玲香
『あっ…んっ！あっあっあぁ…っ！
はあっ…はあ…っ！…あかんよ！
こんなええ気持ちなんが続いてたら…
うち…おかしくなってまうよ～！』
『え…えっ？な…中？中がなんやの？
んっ…なんでもええから…っ…あっ！
うち…キミと一緒にイキ…たいねん！
うち…もうあかん！もう…イッてまう！
あっあぁぁ…あっあっ！…あぁっ…!!』
玲香
『イクっイクっ…イっくうぅっ!!
あっ！あぁぁぁぁぁぁぁっ!!』

玲香 ―After―
『んあっ…ふっ…は…あっ…はあっ…
…はあ…っ…はあっ…んっ…めっちゃ気持ち…
良かったし…はあ……めっちゃ嬉しかったけど
…中に…っ出したら…あかんのとちゃうん…？
はあっ…うち……初めてだからそういうの…
分からへんねん……』
『そうそう…宣はボウリング場でマイボール…
夜はキミのボールを転がし……ってコラ！
こんな純情可憐な乙女に何言わせんねん…♡
も～…最後までキミのペースに巻き込まれるとは
思わへんかったわ…あ！もうこんな時間やないの！
ホラ！早く片してキミの部屋に行くで！』
玲香
「プロボウラー志望。関西系で姉御系。」

るい『ふふ…いっぱい出ちゃった♡』

るい『そんなに私の胸が気持ちよかった？
でも…ここはもっと気持ちいいわよ♡
キミしか知らない…私のここに…
いっぱい染み込ませてほしいなぁ♡』

るい『あっ！んああっ…！…そんなに
急がない…でぇ…っ！やあ…ん
あっく…あっあ…あああ…っ！』

るい『や…っ…キミのが…良すぎて…
もうイッちゃいそっ…っ！
もっ…と…あっ…キミの…を
感じていたいのにい…っ…んああっ！』

るい『だ…め…もうダメ…え…っ！
もうイッちゃう！イッちゃうっ！
イク…っイクっイクっっっっ!!』

るい ―Berore―
『ふふ…♡昨日の夜はあんなにいっぱいしたのに…キミは全然物足りないの？いいの…謝らないで♡キミがいま…したい事を…私もしたいな…って思ってたらキミはどうするのかなぁ♡私はもう自由に動けるんだから…キミの好きにしてくれていいのよ♡』

るい ―After―
『あ…は♡凄いわ…ぁ♡はっ…あ…っん…なあに…？はあ…高校教師がこんなに乱れたら…おかしい…？…はあ…っ…私は教師であるまえに…女なんだから…ぁ…♡』
『私…まだ体が火照ってるみたいなの…この後…お部屋に行っていいかしら？そう…よかった…この続きは…キミのお部屋でいつもみたいに…ね♡』

るい
「ムンムンな大人の色気と教養。その昼の顔は…？」

亜麻音
『あなたに…私のすべてを…お任せします…
ずっと…一緒に…んっ…♡』
亜麻音
『痛…っ！…はあっ…はあっ…
これが…初めての…感覚なんですね…
んっ…く…あっ…』
亜麻音
『あっ…ああああ…っ！…くううっ…！
んっ！…っ…続けて…くだ…さいっ！
私…た…っ…耐えられます……
んああっ！あっ…あっあああっ!!』
亜麻音
『はあっ…はあっ…ん…っ…
お腹のなか…に…あなたの…が
いっぱい…感じます…うっ…ぐすっ…
初めてが…あなたでよかった…
うっ…ひっく…よかった…♡』

亜麻音

「引っ込み思案な、籠の中の鳥。夢見るお嬢様…」

ナオ ―Berore―
『こっそってカーテン閉めるとね……ほら…
外から全然見えなくなるんだよ♡
周りのテーブルからも少し離れてるから
何をしていても聞こえない…と思うんだ』
「カーテン閉めて何をするのかって…？
え～っと……あ…！なんかボク
急に暑くなってきちゃった…うん！そうだ！
そんな時は脱げばいいんだよね…アハハ♡」
ナオ
『えっ？脱ぎ方がサバサバしてて男っぽいって？
ひどいよ～！ボクだって女の子らしくしようと
ドキドキしながら頑張ってるのに～！
もう…怒っちゃうよ！』
「でも…ね……ボクを…本当の女の子に
してくれたら……許してあげる♡」
「女の子らしさに憧れる、道場の師範代。」
ナオ

ナオ
『ぅ…んんあっあっ…ああぁっ…！
んっん…っ…あっ…熱いよおぉっ！
ボクの中に…熱いのが…
出たり…入ったりしてる…こんな…
こんなの…ずっと続いたら…
ボク…気持ちよすぎて…おかしく
なっちゃうよぉ…っ♡』

ナオ
『あ…？イッちゃ…う？
ボク…っイッちゃうよっ！
イッちゃうよおっっ!!』

ナオ
『イッちゃう…イクううううう
あああああああああっ!!』

ナオ
『ぐすっ…ひっく…うれ…しいなぁ…
う…っく…ボク…これで…
本当の女の子になったんだね…
ひっく……エへへ……♡』

『あ…っ♡……すごい…！
…はあ…っ…はあっ…いっぱい…
溢れてきちゃった……こんなに
出されちゃったら…女の子らしく
なる前にママになっちゃうよぉ…♡』

理保 ―Before―
『あなたになら…見られちゃってもいいかな…
な～んてね…あ～何か目つきがエッチだよ？』
理保
『そんなに見つめられると恥ずかしいよ～
うん……上も下も白だよ……え？下の方？
もっと見たいの…？…ふふ…ダ～メ♡
でも…ね…私のお願い事を聞いてくれたら
あなたになら見せてあげても…いいかな？
あのね……私にとって初めての人に
……なってくれる？』
『あ……そんなに心配しないで…私…
出来るだけ我慢するよ……』
「ブレイク寸前のグラビアアイドルが何故ここに？」
理保

理保『はあっ…はあ…っ…ん…ふあ…っ…はあっ…はあっ…』
理保『すごい…男の人って…こんなに出ちゃうんだ……すごく濃いんだね…私…ネバネバが嫌いなんだけど…あなたのは……好き……かも……』
理保『あっ…っっ…！…私の中に……入って…くる…ん…くっ…あ…痛い…けど……ぐす…っ……私…が…我慢でき…るよ…』
理保『んあああっ！あっあ…っ！き…てっ！私の中に…あなたの…でいっぱいにして…えっ！…んあっっ！あああああぁぁあっ!!』
理保『はあっ…はあっ…は…っ…ん……っ……私たち…ずっと一緒だよ…♡』

Dream C Club
【ドリームクラブ 仮入会証】

Only for "Pure" adult

■

Presented by
YASUTOMO MIYAGI. PHANTOMCROSS